

# 三十周年にあたって

会長 田中恒男

学校という場でクラブ活動のもつ意義と果す役割は計りしれない大きさをもっています。たまたま同じクラスになった生徒が一つの教室に集まって授業を受けるだけの学校生活だったら、およそ無味乾燥なものになってしまふでしょう。クラスや学年をこえて、同好の士が一つの目的をもつて集まり、協力しながら活動を進めていく、この中から得られる体験は私たちが成長していく過程においてきわめて貴重なものであります。そこで、こういう体験を得る機会をすべての人に与えようというわけで、数年前から中学・高校でクラブ活動の間が教科と同じように時間割の中にくみこまれ、全員がこれに参加することが義務づけられました。これを必修クラブなどと呼んでいます。しかし人から強制されたり義務づけられてやるようなクラブでは、本来の目的は果せません。自分たちの意志で参加し、自分たちの手で運営していくところにクラブの値うちがあるわけです。私も現在中学校に勤めています。卒業してしばらくたつと殆んど学校へ寄りつかない生徒もクラブ活動でたてに結ばれたつながりがあると別です。ときどき顔を出して先輩と一緒に活動したり指導したりしています。このつながりをいつまでも大切にしていきたいものです。西高の卓球部も設立してから三十年目を迎えました。長い月日の間には楽しい思い出やつらかった体験なども数々あることでしょう。この機会に、これまで歩んできた部の歴史をふりかえって記録に残しておくことは大変意義深いことと思います。記念誌発行にあたり、この事業に協力してくださった方々、また日頃西卓会の運営にご尽力いただいている方々に心から感謝の意を表します。